

勝瑞発掘だより 第4号

第2回勝瑞展～木製品が語る中世の暮らし～特集

濠の底から出土したたくさんの木製品は、絵巻の中の世界へ案内してくれるようです。

食事風景を再現



折敷(おしき)
いわゆる「お膳」です。

漆塗りの碗(左)

食事風景はこんな感じだった
のでしょう(右)



このほかに木製の箸、中国製磁器の碗(わん)や皿なども出土しています。濠からの出土品で一つのお膳を作ることができます。

子どもの遊びを再現



←とんぼ

今では竹製が一般的ですが、
これは木製です。

こま→

外側は木地のまま
で、内側は赤や黄色
に塗られています。



子どもたちの
笑い声が聞こえ
てくるような気
がしませんか？

庭に打ち水か？



桶の底(左上)
ひしゃく(右上)
下駄(左)

お墓？持仏堂？



卒塔婆(そとば)

今でも墓地で使われています。五輪
塔も出土しているので、近くにお墓が
あったようです。



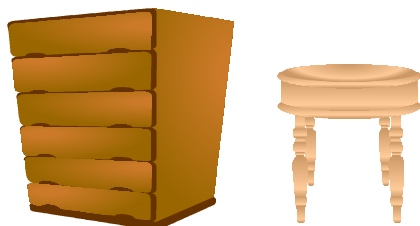
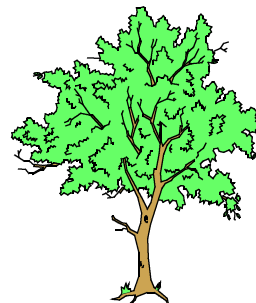
こけら経

「法華経」の経文を薄い木に書き写
したものです。1枚に19文字書かれて
います。「法華経」の経文をすべて書
き写すには、何千枚もの板が必要です。

どうしてたくさんの木製品が残っていたの？

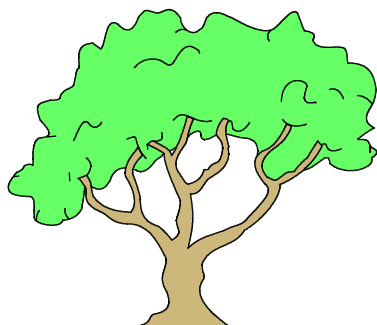
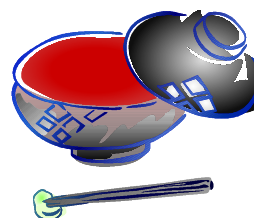
私たちの生活の中には、机やタンス、
椀や皿、箸など多くの木製品に囲まれています。

中世の暮らしの中にも、当然多くの木製品が使われていたと思われます。



しかし、発掘調査で木製品が出土するのはとても珍しいことです。それは、木は腐ってなくなってしまうことが多いからなのです。

物が腐る条件を考えてみましょう。
第一に腐敗菌があること、第二に空気があること、第三に水があること、そして第四に温度が一定に保たれていることがあげられます。



今回の勝瑞館跡第10次発掘調査では、濠跡を調査しています。濠跡には粘土がたまっていて、真空パックに近い状態となっていました。そのため、木製品が腐ることなく元の状態で保存されていたのです。そして、そこからは多くの貴重な資料を得ることができました。

(須崎)

第2回勝瑞展

10月26日(火)～11月7日(日)

藍住町立図書館(開館時間10:00～18:00 月曜休館)

シンポジウム藍住の文化を探る

11月7日(日)(10:00～11:00)

藍住町コミュニティセンター(役場4F)

コーディネーター：三好昭一郎

パネラー：原田史郎(染色家)

：重見高博(町教委)

守護町勝瑞遺跡の情報はホームページでも
ご覧になれます。

URL <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>

勝瑞発掘だより第4号

編集・発行 藍住町教育委員会

2004年10月26日発行

守護町勝瑞遺跡発掘調査事務所

088-641-3466

